

6月1日(金) のぼりべつ文化交流館 『カント・レラ』オープン

市は、市内で出土した土器類などの埋蔵文化財を展示する施設として、昨年度から『のぼりべつ文化交流館』（旧登別温泉中学校）の整備を進めてきました。

施設は、鉄筋コンクリート造り3階建てで、1階を市内の遺跡から出土した土器や石器など埋蔵文化財の保管・展示のほか、体験学習などを行えるよう整備。2・3階は、絵画や書道などの作品の展示や創作、さらには、会議や研修の場として利用できるように整備しました。

また、胆振管内の教職員の研究・研修の場となる胆振教育研究所としても活用します。

遺跡を知る体験学習や創作活動、市民サークルの活動の場として、ぜひご利用ください。



▲1階展示スペース

愛称は『カント・レラ』

市は昨年9月、施設に親しみがあり、気軽に足を運びたいくなるよう愛称を募集。131件の応募の中から有識者で構成する『選考委員会』で審査をした結果、愛称は山本絢子さんの『カント・レラ』に決まりました。

▼愛称の由来 アイヌ語でカント＝天空、レラ＝風

「小高い丘の上に立つ天に近い場所から、文化の風がのぼりべつの街に降り注ぐことを祈って考えました」（山本絢子さん）



▲教育委員長から表彰状を受け取る山本さん

施設オープンに向けた作業

施設のオープンには、郷土資料館に展示していた埋蔵文化財や札内町の旧教職員住宅に保管していた土器・石器などを保管したコンテナ約1千500箱の運搬・整理・展示と多くの作

業がありました。

この作業には、縄文をテーマにしたサークル『登別縄文どきどきクラブ』の皆さんにボランティアで協力していただきました。



▲カント・レラに搬入された埋蔵文化財など

『登別縄文どきどきクラブ』の代表大谷賢一さんは、「わたしたちのクラブでは、遺物の搬入段階から施設に出入りしています。今後は多くの市民の皆さんが集う登別の文化交流施設として利用されることと思います。わたしたちも利用する1階ホール部分では、登別市から出土した遺物などが展示され、縄文時代の登別の様子を知ることが出来ますので、ぜひ来館して楽しんでほしいですね」と話してくれました。

